

A001 深部静脈血栓症のリスクファクターでないのはどれか。

- a 肥満
- b 妊娠
- c う歯治療
- d 長期臥床
- e 担癌状態

c

A008 インスリン自己注射の指導について正しいのはどれか。

- a 筋肉内注射を指示する。
- b 注射後は皮膚をよくもむ。
- c 注射用量は mg 単位で指示する。
- d 未開封の製剤は冷凍保存を指示する。
- e 速効型インスリンは攪拌不要である。

e

A017 我が国における食物依存性運動誘発アナフィラキシーの原因として頻度が高いのはどれか。2つ選べ。

- a 甲殻類
- b 牛乳
- c 小麦
- d 大豆
- e 卵

ac

A021 65 歳の女性。健忘を主訴に家族に連れられて来院した。3 か月前から家に引きこもりがちになり、倦怠感と不安を訴えて外出しようとしなくなった。2 週間からぼんやりして物忘れが目立つようになり、動作も緩慢になった。昨夜、誰もいないのに誰かを激しく叱っているところを家族が目撃した。意識レベルは JCS I - 1。活動性の低下を認める。身長 154 cm、体重 67 kg。体温 35.4 °C。脈拍 52/分、整。血圧 94/48 mmHg。呼吸数 12/分。顔面と両側の下腿とに浮腫を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは 18 点 (30 点満点)、Mini-Mental State Examination (MMSE) は 20 点 (30 点満点) である。四肢の近位部に徒手筋力テストで 4 の筋力低下を認め、大腿四頭筋を叩打すると筋腹の膨隆が生じる。腱反射は打腱後の筋弛緩遅延を認め、Babinski 徴候は陰性である。

原因として最も考えられるのはどれか。

- a 甲状腺機能低下症
- b 前頭側頭型認知症
- c ビタミン B12 欠乏症
- d 進行性多巣性白質脳症

e 筋強直性ジストロフィー

a

A023 75 歳の男性。発熱を主訴に来院した。糖尿病腎症による腎不全のため 10 年前から血液透析療法を受けている。1 か月前、内シャントが閉塞し透析を行うためカテーテルを週間留置した。2 週前から食欲不振と微熱が出現し、昨日、血液透析後から悪寒と戦慄とを伴う 38℃ 台の発熱が出てきたため救急外来を受診した。脈拍 100/分、不整。血圧 100/60 mmHg。今までに認められなかった心尖部を最強点とするⅢ/Ⅵ の収縮期雑音を聴取する。血液所見：赤血球 320 万、Hb 9.0 g/dL、Ht 28 %、白血球 10,500、血小板 9.8 万。血液生化学所見：AST 34 IU/L、ALT 9 IU/L、LD 231 IU/L（基準 176～353）、尿素窒素 35 mg/dL、クレアチニン 5.0 mg/dL。CRP 14 mg/dL。血液培養の検体を提出した。

次に行う検査はどれか。

- a 胸部 CT
- b 心エコー検査
- c 腹部血管造影
- d 腹部超音波検査
- e 上部消化管内視鏡検査

b

A025 47 歳の女性。右趾の難治性潰瘍と高血糖のため紹介されて来院した。10 年前から糖尿病の診断を受けていたが、1 年ほど通院していなかった。2 か月前に右趾に湯たんぽで熱傷を負い、自宅近くの診療所で処置を受けていた。難治性のため血糖を測定したところ、550 mg/dL と高く、紹介されて受診した。身長 155 cm、体重 62 kg。血圧 156/94 mmHg。顔面と下腿とに高度の浮腫を認める。腹部に血管雑音を聴取しない。尿所見：蛋白 裕、潜血 安、沈渣に上皮円柱

個/数視野、脂肪円柱 5～9 個/各視野、尿蛋白 3.8 g/日。血液所見：赤血球 380 万、Hb 11.8 g/dL、Ht 37 %、白血球 5,900、血小板 36 万。血液生化学所見：総蛋白 5.8 g/dL、アルブミン 2.6 g/dL、IgG 1,166 mg/dL（基準 960～1,960）、IgA 160 mg/dL（基準 110～410）、IgM 69 mg/dL（基準 65～350）、尿素窒素 8 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、HbA1c 13.5 %（基準 4.6～6.2）、総コレステロール 380 mg/dL。免疫血清学所見：ASO 200 単位（基準 250 以下）。抗核抗体陰性、CH50 38.4 U/mL（基準 30～40）。

この患者の治療に有効でないのはどれか。

- a インスリン
- b カルシウム拮抗薬
- c 副腎皮質ステロイド
- d HMG-CoA 還元酵素阻害薬
- e アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

c

A026 33 歳の女性。日前に市販のキットで尿妊娠反応が陽性であったため来院した。最終月経は 7 週前、月経周

期は 30～45 日である。3 年前に糖尿病と診断され、半年前からは自宅近くの診療所でインスリン治療を受けている。内診で子宮は鵝卵大で付属器は触れない。尿所見：蛋白安、糖安、ケトン体安。血液生化学所見：血糖 90 mg/dL、HbA1c 5.8 %（基準 4.6～6.2）。経膈超音波検査で子宮内に長径 25 mm の胎嚢と心拍動を有する胎芽とを認める。妊娠していることを患者に伝え、糖尿病による胎児奇形が心配だという。患者への説明として適切なのはどれか。

- a 「人工妊娠中絶を勧めます」
- b 「胎児奇形は羊水検査で診断できます」
- c 「治療をインスリンから経口糖尿病薬に変更しましょう」
- d 「胎児奇形のリスクが一般の方より高い状況ではありません」
- e 「今から葉酸を十分に摂取すれば胎児奇形の頻度が減少します」

d

A036 62 歳の男性。胃切除術後の定期受診のため来院した。3 か月前に Ib 期の胃癌にて幽門側胃切除術、Billroth I 法再建術を受け、1 か月ごとに定期受診していた。経口摂取量は徐々に増加している。最近週に 3、4 回、食後数時間後に全身倦怠感、冷汗および手の震えを感じるようになった。身長 173 cm、体重 63 kg。体温 36.7 °C。脈拍 80/分、整。血圧 132/82 mmHg。腹部は平坦、軟で、腫瘤を触知しない。

原因として考えられるのはどれか。

- a 貧血
- b 脱水
- c 低栄養
- d 低血糖
- e 低 Na 血症

d

A043 45 歳の女性。急激な体重増加を主訴に来院した。生来健康で、健康維持のために週 2 回スポーツジムに通っている。1 か月前から突然、顔面と下腿とに浮腫が出現し、現在までに 12 kg の急激な体重増加を認め受診した。身長 162 cm、体重 66kg。脈拍 72/分、整。血圧 100/78 mmHg。顔面と下腿とに浮腫を認める。尿所見：蛋白 4 +、糖(－)、潜血(－)、沈渣に卵円形脂肪体 1～4/1 視野、尿蛋白 9.8 g/日。血液生化学所見：総蛋白 4.6 g/dL、アルブミン 1.0 g/dL、CK 148IU/L（基準 30～140）、尿素窒素 38 mg/dL、クレアチニン 1.3 mg/dL、尿酸 7.3mg/dL、総コレステロール 334 mg/dL。CRP 0.1 mg/dL。超音波検査で腎の萎縮と水腎症とを認めない。この患者の血清クレアチニン高値の原因として最も可能性が高いのはどれか。

- a 低血圧
- b 高尿酸血症
- c 低蛋白血症
- d 横紋筋融解症
- e 高コレステロール血症

c

A044 32 歳の初妊婦。甲状腺機能の検査を希望して来院した。妊娠 10 週ころから動悸を感じ、妊娠 12 週で甲

甲状腺機能異常を認めたため紹介されて受診した。甲状腺はびまん性に軽度腫大し、TSH 0.02 μ U/mL（基準 0.2～4.0）、FT4 3.2 ng/dL（基準 0.8～2.2）であった。またヒト絨毛性ゴナドトロピン（hCG）は 200,000 mIU/mL（基準 16,000～160,000）であった。

次に測定すべき検査項目はどれか。

- a TRAb
- b サイログロブリン
- c 尿中ヨウ素排泄量
- d 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
- e 放射性ヨード 123I の甲状腺摂取率

a

A051 22 歳の男性。友人に勧められて禁煙外来を受診した。喫煙歴は 20 歳から毎日 10 本程度。自分で禁煙を何度か試みたがうまくいかないという。現在、大学に通っており、既往歴に特記すべきことはない。

次に実施すべきなのはどれか。

- a もう一度禁煙を試みてうまくいかなければ再受診するよう指示する。
- b 喫煙歴が短いため禁煙外来の対象にならないと説明する。
- c 情報提供を行い禁煙の意志を確認する。
- d 禁煙外来を勧めた友人に連絡する。
- e ニコチン補充療法を開始する。

c

A060 40 歳の男性。自力で動けなくなったとのことで救急車で搬入された。37 歳から「ホルモンか何かの病気」のため自宅近くの医療機関で治療を受けているとのことであるが、通院も内服も不規則だったため病名も含めて詳細は分からないという。以前から時に動けなくなることがあったが、数時間で軽快するためそのままにしていた。本日は起床時に体が動かず起き上がれなくなり、その後もなかなか改善しないため家族が救急車を要請した。身長 167 cm、体重 64 kg。脈拍 96/分、整。血圧 122/70 mmHg。呼吸数 16/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺は軽度に腫大している。胸腹部に異常を認めない。四肢に弛緩性で左右対称性の麻痺があり、徒手筋力テストで程度である。臥位の状態から自力では動けない。感覚障害を認めない。血液生化学所見：Na 140 mEq/L、K 1.8 mEq/L、Cl 103mEq/L。動脈血ガス分析（room air）：pH 7.42、PaCO₂ 38 Torr、PaO₂ 87 Torr、HCO₃⁻ 24 mEq/L。カリウム含有の補液治療を受け、動けるようになった。

検索すべき検体検査と予想される異常パターンはどれか。

- a レニン活性↑、アルドステロン↑
- b レニン活性↓、アルドステロン↑
- c レニン活性↓、アルドステロン↓
- d ACTH↑、コルチゾール↑
- e ACTH↑、コルチゾール↓
- f ACTH↓、コルチゾール↑
- g FT4↑、TSH↓、TRAb 陽性
- h FT4↑、TSH↑、TRAb 陰性

g

B005 輸液製剤で維持液に分類されるのはどれか。

	Na+	K+	Cl-	Lactate-	ブドウ糖
-	mEq/L	mEq/L	-mEq/L	-mEq/L	-%
a	154	0	154	0	0
b	130	4	109	28	5
c	90	0	70	20	2.6
d	45	17	37	20	5
e	0	0	0	0	5

d

B013 治療 A と治療 B との比較を目的としたランダム化比較試験(無作為比較対照試験)を行った。割付と実際の治療人数の表を示す。

治療 A を	治療 B を	治療開始前に	
実際に行った	実際に行った	死亡した	合計
治療 A 割付	110 人	15 人	4 人
治療 B 割付	6 人	115 人	0 人
合計	116 人	130 人	4 人
			250 人

intention to treat(ITT)で 2 つの治療を比較するときに、治療 A と治療 B の人数の組合せで正しいのはどれか。

治療 A 治療 B

- a 110 人―― 115 人
- b 114 人―― 115 人
- c 116 人―― 130 人
- d 125 人―― 121 人
- e 129 人―― 121 人

e

B016 血液中の脂質変動について正しいのはどれか。

- a 食後はカイロミクロンが増加する。
- b 飢餓時は LDL コレステロールが上昇する。
- c 閉経後は HDL コレステロールが上昇する。
- d LDL コレステロールの著増は乳び血清をきたす。
- e 動物性蛋白をとらないと LDL コレステロールが異常低値を示す。

a

B022 ランダム化比較試験(無作為比較対照試験)においてランダム割付を実施する目的はどれか。

- a 治療中断の防止
- b 偶然誤差の制御

- c 治療内容の盲検化
- d 比較群間の均質性の向上
- e 患者の試験への参加率の上昇

d

B027 疾患と電解質異常の組合せで誤っているのはどれか。

- a Fanconi 症候群――低 P 血症
- b Bartter 症候群――低 K 血症
- c Gitelman 症候群――高 K 血症
- d 腎性尿崩症――高 Na 血症
- e 遠位尿細管性アシドーシス――高 Cl 血症

c

B032 特定健康診査で必須の項目はどれか。2 つ選べ。

- a 心電図
- b γ -GTP
- c 血圧測定
- d 眼底検査
- e 尿素呼気試験

b c

B036 血糖値と血清インスリン値とが正常に比し同方向に変化(両方とも上昇、または、両方とも低下)するのはどれか。2 つ選べ。

- a 慢性膵炎
- b 1 型糖尿病
- c インスリノーマ
- d 下垂体副腎不全症
- e インスリン抵抗性を主病態とする 2 型糖尿病

d e

C001 検査前確率(事前確率)について正しいのはどれか。

- a 感度と特異度から算出する。
- b 病歴聴取の情報量により変化する。
- c 検査後確率(事後確率)の影響を受ける。
- d 主訴が同一なら診療所と病院で変化しない。
- e 疾患を有する人の中で検査が陽性となる確率のことである。

b

C004 病院の臨床機能評価指標(クリニカルインディケーター)に含まれないのはどれか。

- a 患者満足度
- b 転倒発生率
- c 診療の利益率
- d 外来待ち時間
- e 平均在院日数

c

C005 SPIKES モデルに基づく悪い知らせの伝え方について正しいのはどれか。

- a 疾患によって説明内容は一律である。
- b 説明は面談用の個室で行わなければならない。
- c 患者自身の病気に対する認識を聞くことが前提である。
- d 患者に話す内容について予め家族の許可を得てから行う。
- e 患者自身の考えを聞く前に十分に疾患の情報を伝えなければならない。

c

C006 診療ガイドラインについて正しいのはどれか。

- a 患者の価値観は重視しない。
- b 推奨と異なる診療は違法である。
- c 最新版であることを確認して利用する。
- d 作成母体により内容が異なることはない。
- e 根拠はランダム化比較試験に限定される。

c

C012 診療に関する諸記録について誤っているのはどれか。

- a 検査所見記録は医療法に定められている。
- b 退院時要約は外来診療との連携に活用される。
- c 処方箋は調剤済みとなった時点で破棄される。
- d 診療録は電子カルテとして保存することも可能である。
- e 入院診療計画書には予定する検査、手術および投薬を記載する。

c

C013 健康日本 21(第二次)で摂取量の目標値が設定されているのはどれか。

- a 魚
- b 卵
- c 豆類
- d 野菜

e 乳製品

d

C017 35 歳の男性。日中の眠気とだるさを主訴に来院した。年前から仕事が忙しくなり、午後 11 時近くまで仕事をするようになった。睡眠による休息感が得られない状態が続き、2 か月前から起床時に口渇や頭痛を感じることが多く、日中の眠気とだるさを感じるようになった。仕事が忙しくなってから、帰宅後に夜食を食べることが多くなり、体重は 6 か月で 8kg 増加した。午前 1 時までには就床し、午前 8 時に起床する。家族からは大きなびきと無呼吸とを指摘されている。身長 170 cm、体重 82 kg。脈拍 72/分、整。血圧 146/86 mmHg。

患者への説明として適切なのはどれか。

- a 「早寝早起きに生活を変えましょう」
- b 「減量のため栄養指導を受けましょう」
- c 「就寝前に水をコップ 2 杯飲みましょう」
- d 「睡眠薬で深く眠れるようにしましょう」
- e 「ストレスを和らげるために抗不安薬を服用しましょう」

b

C023 36 歳の男性。事務職。不眠を主訴に来院した。半年ほど前から寝つけない、熟睡感がないと感じている。1 か月前から昼間に眠くなって集中力が続かなくなっていた。生活習慣として、就寝前、3～4 時間以内にコーヒーを飲み、睡眠薬代わりに寝酒を飲み、眠くなるまでテレビを見て深夜を過ごしている。平日は起床後にしっかりと朝食をとっているが、休日は睡眠不足を補おうと 3～4 時間朝寝坊している。

生活指導において継続を勧めるべき習慣はどれか。

- a 就寝前、3～4 時間以内にコーヒーを飲む。
- b 睡眠薬代わりに寝酒を飲む。
- c 眠くなるまでテレビを見る。
- d しっかりと朝食をとる。
- e 休日は朝寝坊する。

d

次の文を読み、26、27 の問いに答えよ。

78 歳の女性。食欲不振と軽度の全身倦怠感とを主訴に紹介されて来院した。

現病歴：4 週前に自宅で転倒して尻もちをつき腰痛が出現したため自宅近くの診療所を受診した。腰椎エックス線写真で第腰椎の圧迫骨折を認め、腰椎骨塩定量検査で骨密度が著明に低下しており、骨粗鬆症と診断された。非ステロイド性抗炎症薬、ビスホスホネート製剤、カルシウム製剤および活性型ビタミン D 製剤による治療が開始された。2 週後の再診時には腰痛は軽減し、非ステロイド性抗炎症薬は終了となったが、他の薬剤はその後も投与が継続されていた。1 週前から食欲不振と軽度の全身倦怠感とを自覚し持続するため紹介されて受診した。尿検査と血液検査の結果を持参している。

既往歴：70 歳時に胆石で胆嚢摘出術。75 歳時に大腸憩室炎。

生活歴：娘夫婦と孫 2 人との 5 人暮らし。腰痛が軽減した後は日課にしていた朝 30 分の散歩を再開している。

検査所見(持参したもの)：尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球 468 万、Hb 14.6 g/dL、Ht 42 %、白

血球 4,600、血小板 36 万。血液生化学所見：総蛋白 7.6 g/dL、アルブミン 4.6 g/dL、総ビリルビン 0.8 mg/dL、直接ビリルビン 0.4 mg/dL、AST 24 IU/L、ALT 10 IU/L、LD 226 IU/L 基準 176～353、尿素窒素 32 mg/dL、クレアチニン 1.1 mg/dL、尿酸 8.6 mg/dL、血糖 120 mg/dL、Na 146 mEq/L、K 3.8 mEq/L、Cl 104 mEq/L。CRP 0.3 mg/dL 未満。

現症：意識レベルは JCS I -2。身長 150 cm、体重 45 kg。体温 36.0℃。脈拍 84/分、整。血圧 132/92 mmHg。呼吸数 16/分。SpO2 96 %(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢の筋力に異常を認めない。

C026 この患者にみられる可能性が高いのはどれか。

- a 下痢
- b 耳鳴
- c 視力低下
- d 皮膚掻痒
- e 多飲・多尿

e

C027 診断に有用な検査はどれか。

- a 便培養
- b 聴力検査
- c 血中 Ca 測定
- d 頭部単純 CT
- e 胸部エックス線撮影

c

D009 検査の解釈において正しいのはどれか。

- a 尿素窒素(BUN)/血清クレアチニン比の上昇は腎実質障害を示唆する。
- b 高尿酸血症の病型鑑別に尿酸排泄率(FEUA)は有用ではない。
- c 尿素窒素(BUN)は上部消化管出血があると上昇する。
- d 白血球数の推移は水分過不足の良いマーカーである。
- e 血清尿酸値の低下は脱水を示唆する。

c

D010 高齢者における高血圧症について正しいのはどれか。

- a 収縮期高血圧症が多い。
- b 起立性低血圧の合併が少ない。
- c 高用量の降圧剤で治療を開始する。
- d 若年者より降圧目標とする血圧値が低い。
- e 有病率の男女差が若年と比較して大きい。

a

D017 40 歳台の女性で加齢とともに低下するのはどれか。2 つ選べ。

- a 骨密度
- b 流産率
- c 妊娠率
- d 心血管系疾患の発生率
- e LDL コレステロール値

a c

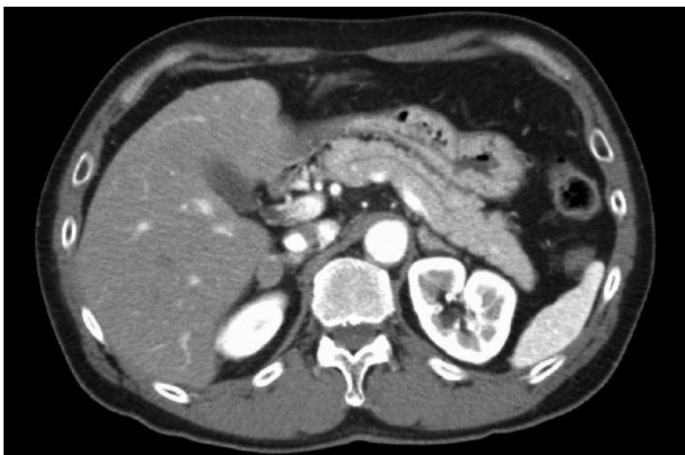
D026 48 歳の男性。多尿と血圧上昇とを主訴に来院した。最近、夜間に尿が多く出るようになり、その都度、水をたくさん飲んでいる。家庭血圧も上昇してきたため受診した。年前に人間ドックで副腎腫瘍を指摘されたがそのままにしていた。家族歴に特記すべきことはない。身長 170 cm、体重 65 kg。脈拍 68/分、整。血圧 172/90 mmHg。尿所見：比重 1.002、蛋白(－)、糖(±)。血液所見：赤血球 460 万、Hb 13.7 g/dL、Ht 42 %、白血球 5,400、血小板 26 万。血液生化学所見：クレアチニン 0.8 mg/dL、血糖 145 mg/dL、HbA1c 6.2 % (基準 4.6～6.2)、Na 143mEq/L、K 3.1 mEq/L、Cl 101 mEq/L。腹部造影 CT(別冊 No. 5)を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。

- a 血漿バソプレシン定量
- b 75g 経口ブドウ糖負荷試験
- c 血漿 ACTH・コルチゾール定量
- d 血漿レニン活性・アルドステロン定量
- e 尿中メタネフリン・ノルメタネフリン定量

No. 5

(D 問題 26)



d

D032 26 歳の女性。2 週前から動悸が続くことを主訴に来院した。階段昇降時に息切れが出現する。喘息の既往はない。体温 37.3 °C。脈拍 120/分、整。血圧 158/60mmHg。頸部に弾性硬のびまん性の甲状腺腫を認める。甲

状腺に圧痛はない。心音に異常を認めない。赤沈 15 mm/1 時間。血液所見：赤血球 420 万、Hb 13.0g/dL、Ht 42 %、白血球 6,000。血液生化学所見：TSH 0.1 μ U/mL(基準 0.2~4.0)、FT4 4.6 ng/dL(基準 0.8~2.2)、TRAb 1.0 IU/L(基準 1.0 以下)。CRP 0.2 mg/dL。心電図は洞頻脈。胸部エックス線写真で心胸郭比は 42 %、肺野に異常を認めない。99 mTcO₄-甲状腺シンチグラム(別冊 No. 10)を別に示す。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 抗菌薬
- b β 遮断薬
- c 無機ヨード
- d 抗甲状腺薬
- e 副腎皮質ステロイド

No. 10 (D 問題 32)



b

D035 51 歳の男性。左の下腹部から側腹部にかけての痛みを主訴に来院した。昨日、仕事に左背部に軽度の痛みが出現したが 30 分ほどで軽快した。本日午前 8 時ころ、出勤途中の電車の中で、突然、左の下腹部から側腹部にかけての強い痛みが出現したため受診した。来院の途中に悪心と嘔吐があった。意識は清明。体温 36.3℃。血圧 158/94 mmHg。顔色は蒼白で冷汗を認める。腹部に反跳痛を認めない。左の肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白 1+、糖(-)、潜血 3+、沈渣に赤血球 15~30/1 視野、白血球 1~4/1 視野。血液所見：赤血球 460 万、Hb 14.6g/dL、Ht 46 %、白血球 8,300、血小板 22 万。血液生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 1.1 mg/dL、AST 35 IU/L、ALT 32 IU/L、LD 186 IU/L 基準 176~353、 γ -GTP 45 IU/L(基準 8~50)、尿素窒素 23 mg/dL、クレアチニン 1.2 mg/dL、尿酸 8.6 mg/dL、血糖 92 mg/dL、Na 136 mEq/L、K4.0 mEq/L、Cl 109 mEq/L、Ca 9.2 mg/dL。CRP 1.2 mg/dL。腹部超音波検査で左水腎症、左腎結石および左尿管結石を認める。腹部単純エックス線写真(別冊 No.11A)と腹部単純 CT(別冊 No. 11B)とを別に示す。

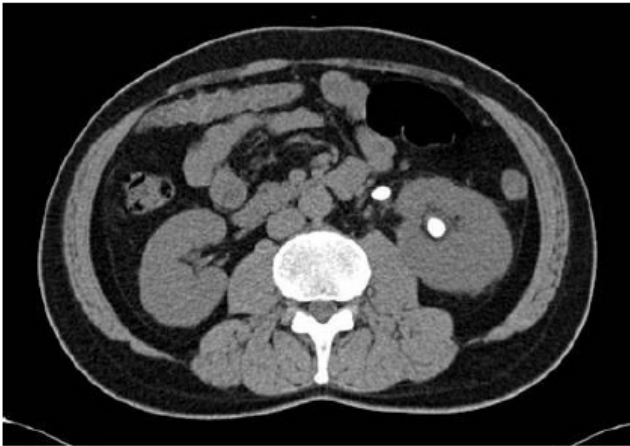
この患者で予測される結石成分はどれか。

- a 尿酸
- b 炭酸カルシウム
- c リン酸カルシウム
- d シュウ酸カルシウム

No. 11 A (D 問題 35)



No. 11 B (D 問題 35)



a

D045 70 歳の男性。傾眠状態と見当識障害のために、かかりつけの診療所から紹介されて来院した。4 か月前から食道癌に対して抗癌化学療法を行っており、1 か月前からはバソプレシン拮抗薬も併用していた。この数日は全身倦怠感と食欲不振があるため、かかりつけの診療所で点滴を受けていたが、傾眠状態と見当識障害が出てきたため紹介されて受診した。問いかけに応答はできるが反応は遅く内容は必ずしも適切でない。身体所見に異常を認めない。尿所見：比重 1.012、蛋白(－)、糖(－)。血液生化学所見：アルブミン 3.9 g/dL、尿素窒素 11 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、尿酸 1.3 mg/dL、血糖 90 mg/dL、Na 119 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 87 mEq/L、Ca 9.6 mg/dL。

この患者にまず行うべき対応はどれか。

- a 水制限
- b 食塩負荷
- c 生理食塩液の投与
- d ループ利尿薬の投与
- e 5%ブドウ糖液の投与

a

D054 60 歳の男性。気が遠くなるようなめまいが出現したことを主訴に来院した。この症状は 1 週間から 1 日に 1、2 回自覚している。めまいの発作の出現は立位動作とは関係がなく、歩行中や座位でも生じるという。失神はない。高血圧症、左室肥大、胃潰瘍および脂質異常症で内服治療中である。意識は清明。身長 169 cm、体重 65 kg。体温 36.2 °C。脈拍 60/分、整。血圧 148/82 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経学的所見に異常を認めない。血液生化学所見に異常を認めない。心電図は洞調律、心拍数 60/分で PQ 時間が 0.24 秒(基準 0.12~0.20)である。

その他に異常を認めない。胸部エックス線写真で異常を認めない。心エコーで異常を認めない。Holter 心電図におけるめまい自覚時の記録(別冊 No. 25)を別に示す。

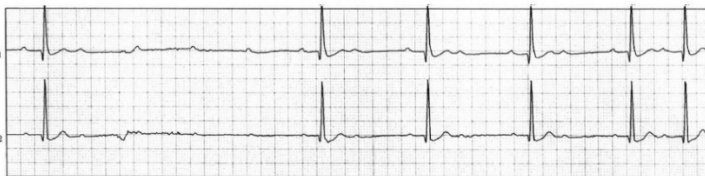
内服を中止する必要があるのはどれか。

- a α 遮断薬
- b β 遮断薬
- c HMG-CoA 還元酵素阻害薬
- d ヒスタミン H2 受容体拮抗薬
- e アンジオテンシン II 受容体拮抗薬

No. 25

(D 問題 54)

午前7:47:15 めまい自覚時



記録速度 25mm/秒

b

D055 33 歳の男性。増殖前糖尿病網膜症の治療を目的とし紹介されて来院した。10 年前から健康診断で尿糖陽性を指摘されていたが自覚症状がないためそのままにしていた。最近、視力低下を自覚したため自宅近くの眼科を受診した。増殖前糖尿病網膜症と診断され、紹介されて受診した。父親が糖尿病で治療中である。身長 172cm、体重 64 kg。脈拍 88/分、整。血圧 176/92 mmHg。尿所見：蛋白 4+、糖 3+。血液生化学所見：総蛋白 6.5 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、クレアチニン 1.8mg/dL、空腹時血糖 176 mg/dL、HbA1c 8.5 %基準 4.6~6.2。

眼科的治療を開始するとともに行うべきなのはどれか。2 つ選べ。

- a 積極的な運動療法を勧める。
- b ビグアナイド薬を投与する。
- c 塩分の摂取制限を指導する。

- d 蛋白質の積極的な摂取を勧める。
- e 少量のインスリンの分割投与を開始する。

c e

E007 地域の保健・医療・福祉・介護について正しいのはどれか。

- a 主治医の意見は要介護認定に影響しない。
- b 地域包括支援センターは在宅医療を提供する。
- c 介護老人保健施設は居宅サービスの一つである。
- d 調剤薬局の薬剤師は訪問指導をしてはいけない。
- e 訪問看護ステーションへの指示書は医師が作成する。

e

E018 摂食量の低下が持続した際に血液中の濃度が上昇するのはどれか。

- a 尿素窒素
- b ケトン体
- c インスリン
- d アルブミン
- e トリグリセリド

b

E019 手段的日常生活動作(IADL)に含まれるのはどれか。

- a 更衣
- b 排泄
- c 移動
- d 服薬管理
- e 認知機能

d

E023 地域保健について正しいのはどれか。

- a 婦人相談所は家庭内暴力を契機に設置された。
- b 保健所には必ず医師を置かなければならない。
- c 地方衛生研究所は地域保健法に基づき設置されている。
- d 市町村保健センターは伝染病の予防のために設置されている。
- e 町村は地域保健対策を円滑に実施するための人材の確保又は資質の向上の支援に関する計画を定める。

e

E025 痛風で制限すべきなのはどれか。

- a 胡椒
- b 食塩
- c レバー
- d コーヒー
- e マーガリン

c

E040 低血糖時に血中濃度が上昇するホルモンはどれか。3つ選べ。

- a グルカゴン
- b アドレナリン
- c コルチゾール
- d バソプレシン
- e 副甲状腺ホルモン

a b c

E051 38歳の男性。人間ドックで血糖値と肝機能検査値の異常を指摘されたため来院した。自覚症状はない。職業はデスクワーク中心の会社員で通勤は自家用車を使用している。2年前の健康診断から高血糖を指摘されていたがそのままにしていた。

既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。飲酒歴と喫煙歴はない。身長 170 cm、体重 82 kg。脈拍 72/分、整。血圧 168/94 mmHg。尿所見：蛋白安、糖安。血液生化学所見：AST 42 IU/L、ALT 68 IU/L、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 138mg/dL、HbA1c 6.9 % (基準 4.6～6.2)、総コレステロール 250 mg/dL、トリグリセリド 140 mg/dL、HDL-コレステロール 40 mg/dL。

この患者に対する食事療法の方針で適切なのはどれか。

- a 塩分の摂取量は 10 g/日未満とする。
- b 総エネルギー量は 2,200 kcal/日とする。
- c 食物繊維の摂取量は 20 g/日以上とする。
- d コレステロールの摂取は 3g/日未満とする。
- e 蛋白質の割合は総エネルギー量の 50 %とする。

c

E056 47歳の男性。定期健康診断で高血圧症を指摘され産業医面談に訪れた。話をよく聞くと、2週前に右片麻痺と言語障害が出現したが、2時間後にはすべての症状が消失した。その後は症状がないためそのままにしていたという。このことは家族、会社には話していない。路線バスの運転手で、時々長距離ツアーバスの運転をしている。残業は月 10 時間程度である。定期健康診断の結果は以下のとおりである。身長 170 cm、体重 71 kg。血圧 182/96 mmHg。血液所見：赤血球 490 万、Hb14.8 g/dL。血液生化学所見：AST 15 IU/L、ALT 22 IU/L、 γ -GTP 32 IU/L (基準 8～50)、空腹時血糖 132 mg/dL、総コレステロール 211 mg/dL、トリグリセリド 144 mg/dL、HDL コレステロール 40 mg/dL。心電図と胸部エックス線写真で異常を認めない。

最も適切な指示はどれか。

- a 「今すぐ専門医に連れて行ってもらってください」

- b 「時間があるときに医療機関を受診してください」
- c 「出勤して良いですが運転はしないでください」
- d 「今までどおり勤務を続けて大丈夫です」
- e 「自宅で休んでください」

a

F002 医師から患者への閉鎖型質問はどれか。

- a 「今日はどうなさいましたか」
- b 「動悸の症状についてもう少し詳しく教えてください」
- c 「前の病院の結果についてはどのようにお考えですか」
- d 「最近職場で起こった出来事について自由にお話してください」
- e 「その症状が起こってから睡眠時間が極端に短縮していますか」

e

F003 降圧薬を服用中の高齢患者から「時々、薬を飲み忘れます」と申告があった。
この患者の服薬アドヒアランスの把握と指導のために最も有用なのはどれか。

- a 降圧薬の血中濃度を測定する。
- b 認知機能評価の心理テストを行う。
- c 診療録に記載された血圧の推移を確認する。
- d 再受診時に飲み残した薬剤を持参してもらう。
- e お薬手帳で他の医療機関の処方薬を確認する。

d

F004 血液生化学検査について正しいのはどれか。

- a 食後の採血では血清 K 値は上昇している。
- b 血清 Na 値と血清 Cl 値の差は 48 前後が正常である。
- c 高 Na 血症を認めた場合、まず行うべきなのは塩分制限である。
- d 血清 Ca 値の異常を認めた場合、血清蛋白の異常の有無を確認する。
- e 血清 P 値の異常を認めた場合、次に確認すべき電解質は血清 Na 値である。

d

F006 医療面接におけるシステムレビュー(review of systems)はどれか。

- a 病歴聴取と身体診察とを並行して行う。
- b 問診票の記載に基づいて経過を確認する。
- c 時系列に沿って患者に病歴を説明してもらう。
- d 主訴と関連のない情報も含めて系統的に聴取する。
- e 医療面接で得られた情報を要約して患者に確認する。

d

F010 ある疾患に罹患している検査前確率が 0.1 %と推測される患者に、感度 90 %、特異度 80 %の検査を行う。検査後確率を計算するための 2x2 表を示す。

疾患	有	無	合計
検査結果			
陽性	9	1,998	2,007
陰性	1	7,992	7,993
合計	10	9,990	10,000

検査が陽性だった場合の検査後確率で正しいのはどれか。

- a 0.45 %
- b 0.9 %
- c 4.5 %
- d 9.0 %
- e 20.0 %

a

F015 成人の栄養状態評価に用いられる皮下脂肪厚の計測部位はどれか。

- a 母指球
- b 顎下正中
- c 額部正中
- d 下腿後面
- e 上腕伸側

e

F016 76 歳の男性。背部痛と右上下肢の脱力とを主訴に来院した。今朝、午前 7 時ころ突然の背部から左頸部へ移動する痛みを自覚した。その後、徐々に痛が緩和してきたため、消炎鎮痛薬の貼付剤で様子をみていた。10 分程して右上肢の脱力も出現した。ソファで休もうとしたところ、右下肢にも脱力があることに気付いた。横になって約 30 分でいずれの症状も改善したが、心配した家族とともに午前 10 時に受診した。高血圧症と糖尿病で内服治療中である。意識は清明。身長 172 cm、体重 68 kg。体温 36.5 °C。脈拍 88/分、整。右上肢血圧 136/70 mmHg、左上肢血圧 110/62 mmHg。呼吸数 18/分。SpO2 98 %8room air。神経学的所見に異常を認めない。最も考えられるのはどれか。

- a 低血糖
- b 低血圧
- c 心房細動
- d 大動脈解離
- e 頸動脈硬化症

d

F020 28 歳の女性。突然の腹痛を自覚したため受診できる医療機関をインターネットで探したところ、都道府県のウェブサイトで内科の診療所や病院を検索できるようになっていた。この情報提供システムは、法律に基づいて設置されていると記載されていた。

根拠法として正しいのはどれか。

- a 医師法
- b 医療法
- c 介護保険法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

b

次の文を読み、26、27 の問いに答えよ。

89 歳の女性。左膝の痛みを主訴に来院した。

現病歴： 3 日前から左膝の痛みと 38 °C の発熱が出現した。様子をみていたが症状が改善しないため家族とともに受診した。

既往歴： 右変形性膝関節症。

生活歴： 息子家族と同居。自宅周辺は押し車で散歩する。

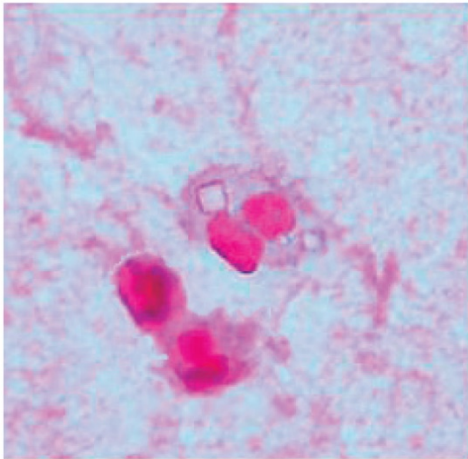
家族歴： 妹が関節リウマチ。

現症： 意識は清明。体温 38.7 °C。脈拍 96/分、整。血圧 138/56 mmHg。呼吸数 18/分。SpO₂ 97 % 8room air。咽頭に発赤を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。左膝関節に発赤、熱感、腫脹、圧痛および膝蓋跳動を認める。

検査所見： 血液所見： 赤血球 404 万、Hb 12.1 g/dL、Ht 36 %、白血球 6,300、血小板 16 万。血液生化学所見： 総蛋白 6.8 g/dL、アルブミン 3.4 g/dL、総ビリルビン 0.6 mg/dL、AST 14 IU/L、ALT 11 IU/L、LD 168 IU/L(基準 17~353)、尿素窒素 20 mg/dL、クレアチニン 0.5 mg/dL、尿酸 5.3 mg/dL。CRP 2.1mg/dL。左膝関節エックス線写真を撮影後に左膝関節を刺し、関節液は黄色混濁である。左膝関節エックス線写真(別冊 No. 4A)と膝関節刺液の Gram 染色標本(別冊 No. 4B)とを別に示す。

No. 4 A (F 問題 26、27)





F026 次に行うべき検査はどれか。

- a 膝関節造影
- b 膝関節 MRI
- c 膝関節鏡検査
- d ^{67}Ga シンチグラフィ
- e 関節液偏光顕微鏡観察

e

F027 まず選択すべき治療はどれか。

- a 抗菌薬の内服
- b 抗リウマチ薬の内服
- c ヒアルロン酸の関節内投与
- d 副腎皮質ステロイドの関節内投与
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の内服

e

G010 ある疾患のリスクについて遺伝要因と飲酒習慣の交互作用が認められるとき、観察される現象として最も適切なのはどれか。

- a 禁酒しても疾患の一次予防はできない。
- b 遺伝要因により飲酒習慣に差異がある。
- c 飲酒習慣にかかわらず遺伝要因が疾患のリスクになる。
- d 遺伝要因により飲酒習慣の疾患への相対危険度が異なる。
- e 飲酒習慣で補正すると遺伝要因と疾患との関連が消失する。

d

G015 尿蛋白量を決定する因子でないのはどれか。

- a 尿浸透圧
- b 糸球体内圧
- c 蛋白摂取量
- d 糸球体基底膜の蛋白透過性
- e 糸球体上皮細胞(ポドサイト)機能

a

G016 外来で行う尿検査について正しいのはどれか。

- a 細菌の検査には中間尿を提出する。
- b 健常人で蛋白尿が出ることはない。
- c 血尿とヘモグロビン尿は同義である。
- d 尿糖陽性であれば血糖は高値である。
- e 蛋白、糖および潜血は異なる試験紙で調べる。

a

G021 妊婦健康診査で妊娠初期に行う血液検査項目はどれか。

- a CRP
- b 血糖
- c 抗核抗体
- d D ダイマー
- e プロラクチン

b

G026 健康日本 21(第二次)に含まれないのはどれか。

- a 食中毒予防
- b 健康格差の縮小
- c 生活習慣病の予防
- d 健康を守るための社会環境の整備
- e 社会生活を営むために必要な機能の向上

a

G027 健康食品について正しいのはどれか。

- a 薬との併用が推奨されている。
- b 法律により定義された用語である。
- c 薬効を示すことが推奨されている。
- d 栄養補助食品やサプリメントが含まれる。
- e カプセル状のものは販売が禁止されている。

d

G043 80 歳の男性。要介護。糖尿病の増悪に対する血糖コントロールと認知症の精密検査のため入院中である。担当医の許可なく病院から外出することがあり、病気の理解度が非常に低い。現在は高齢の妻と人暮らしで、子供はいない。夫婦とも退院後は自宅で暮らすことを希望している。身体に麻痺などの障害はない。退院後もインスリン注射、経口血糖降下薬および抗認知症薬による継続治療が必要である。インスリン注射手技は妻が習得したが自信がないという。患者本人、妻、その他の家族、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカー、医師および看護師を含む多職種カンファレンスの結果、自宅へ戻ることになった。

退院時に優先して手配を考慮すべき地域サービスはどれか。

- a 訪問看護
- b 送迎サービス
- c 居宅介護住宅改修
- d 訪問入浴サービス
- e 通所リハビリテーション

a

G047 85 歳の男性。舌の痛みと息切れとを主訴に来院した。半年前から舌の痛みがあり、2 か月前からは労作時の息切れを自覚するようになった。食欲は減退し、時々悪心を感じることもあるが、食事は少しずつ摂取できている。下痢や便秘はない。75 歳で胃癌のため胃全摘術を受けている。意識は清明。身長 162 cm、体重 54 kg。体温 36.2 °C。脈拍 80/分、整。血圧 110/60 mmHg。SpO2 98 (room air)。眼瞼結膜は軽度貧血様である。舌は淡紅色で表面は滑らかである。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で正中に手術痕があり、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

この患者で疑うべきなのはどれか。

- a 腎不全
- b 低 Ca 血症
- c 鉄欠乏性貧血
- d 巨赤芽球性貧血
- e 微量元素欠乏症

d

G058 38 歳の女性。左下腿の潰瘍を主訴に来院した。3 か月前から母指頭大の紅色結節が出現し、中央が潰瘍化した。自宅近くの医療機関で抗菌薬を処方されたが、潰瘍がさらに拡大したため受診した。左下腿の写真(別冊 No. 11)を別に示す。一般細菌、真菌および抗酸菌培養はいずれも陰性であった。皮疹部の病理組織所見では真皮全層に好中球浸潤がみられるが血管炎像はない。

この患者で合併を疑うべき疾患はどれか。2 つ選べ。

- a 糖尿病
- b 潰瘍性大腸炎
- c 甲状腺機能低下症
- d 弾性線維性偽性黄色腫
- e 骨髄異形成症候群(MDS)



b e

H001 介入を伴う臨床研究について正しいのはどれか。

- a 倫理審査委員会の審査は必要ない。
- b 被験者は研究計画書を閲覧できる。
- c 開始した研究は中止することはできない。
- d 研究に伴う有害な事象は開示しなくてもよい。
- e 研究で得られたデータの部分的改ざんは許容されている。

b

H007 薬物と副作用の組合せで誤っているのはどれか。

- a ジギタリス——悪心
- b オピオイド——下痢
- c 抗ヒスタミン薬——眠気
- d 副腎皮質ステロイド——高血糖
- e ベンゾジアゼピン系抗不安薬——ふらつき

b

H008 甲状腺の診察で正しいのはどれか。

- a 頸部を後屈して行う。
- b 甲状腺は甲状軟骨と舌骨との間に触知する。

- c 唾液を嚥下すると甲状腺は頭側へ移動する。
- d 甲状腺の血管性雑音は頸動脈分岐部分で聴取する。
- e 甲状腺を触知すれば甲状腺腫大があると診断する。

c

H017 行動変容について正しいのはどれか。

- a モデリングが有効である。
- b 行動を変えて1年間は実行期である。
- c 準備期の次のステージは関心期である。
- d 強化マネジメントは無関心期に重要である。
- e 環境変化に応じて反射的に獲得するものである。

a

I013 入院中の患者に対して副腎皮質ステロイド療法プレドニゾロン 25 mg/日を4～6週間使用を行うことになった。

ステロイド糖尿病の発症を効率的に発見するため繰り返し行うべき検査はどれか。

- a HbA1c
- b 早朝空腹時血糖
- c 早朝空腹時尿糖
- d 昼食後時間血糖
- e 75 g 経口ブドウ糖負荷試験

d

I023 成人になったのを機に喫煙を開始し、20歳台の10年間は毎日20本、30歳以降の5年間は毎日40本喫煙している。その後は喫煙していない。

Brinkman 指数はどれか。

- a 15
- b 20
- c 300
- d 400
- e 600

d

I029 アルコールによる異常酩酊を疑う状況はどれか。

- a ビール1杯で悪心を訴えた。
- b 飲酒後に陽気で多弁になった。
- c 飲酒後に大声で興奮し始めた。
- d 虫が這うような幻視を訴えた。

e 大量飲酒して意識を消失した。

c

I040 Wilson 病について正しいのはどれか。3 つ選べ。

- a 大脳基底核に銅が沈着する。
- b 常染色体優性遺伝疾患である。
- c セルロプラスミンは増加する。
- d キレート薬が治療に用いられる。
- e 肝臓からの銅排泄障害が原因である。

a d e

I042 43 歳の女性。職場の健康診断で血清 ALP と血清 Ca の異常を指摘されて来院した。特に自覚症状はない。
血液生化学所見：ALP 548 IU/L(基準 115～359)、Ca11.8 mg/dL、P 2.3 mg/dL。

最も考えられるのはどれか。

- a 家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症
- b 家族性低リン血症性骨軟化症
- c 原発性副甲状腺機能亢進症
- d 続発性副甲状腺機能亢進症
- e ビタミン D 過剰摂取

c

I056 7 歳の男児。腹痛、頻回の嘔吐および全身 z 怠感を主訴に母親に連れられて来院した。この数日間、運動会の練習があり易疲労感を訴えていた。昨夜はほとんど食事をとらずに就寝した。今朝から腹痛と頻回の嘔吐とが出現し、徐々に元気がなくなり、表情に乏しく歩行もできなくなったため受診した。歳ころから今回と同様の経過を数回繰り返している。身長 122 cm、体重 18 kg。体温 36.4 °C。脈拍 92/分、整。顔面は蒼白。咽頭に発赤を認めない。呼気に酸臭を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。皮膚のツルゴールは低下している。

検査で高値を示すのはどれか。

- a 血糖
- b 血清 Na
- c 血清 Ca
- d 尿ケトン体
- e 血清総ビリルビン

d

I067 32 歳の女性。1 回経産婦。妊娠中の血糖管理のため紹介されて来院した。自宅近くの産婦人科医院で妊娠の管理中であったが、妊娠 26 週に測定された血糖が 172 mg/dL であり、75 g 経口ブドウ糖負荷試験を施行され妊娠糖尿病と診断された。既往歴に特記すべきことはない。家族歴は母が型糖尿病で治療中である。妊娠前か

ら飲酒歴と喫煙歴はない。身長 160 cm、体重 71 kg 非妊時 68 kg。身体所見に異常を認めない。腹部超音波検査で胎児に異常を認めない。初診時、HbA1c6.9 % (基準 4.6～6.2)。この患者に対して 1,700 kcal の食事療法と無理のない程度で体を動かすことを指導して血糖の推移をみた。週後の来院時で空腹時血糖 118 mg/dL、食後 2 時間血糖 186 mg/dL であった。

この患者に対する最も適切な対応はどれか。

- a インスリン注射を考慮する。
- b DPP-4 阻害薬投与を考慮する。
- c ビグアナイド薬投与を考慮する。
- d 毎日の運動量を 400 kcal 増やす。
- e 食事エネルギー量を 200 kcal 減量する。

a